

クマとの共生柿もぎ体験(2019.10.27)

中国支部 事務局

昨年は猛暑のため柿が落ちてしまいこの柿もぎ体験が中止され残念な思いをした方も今年は実施でき大喜びです。この柿もぎはクマが餌をも求めて人里に出没しない環境にするために行っています。クマの習性として一度食べたものはそれがなくなるまで食べ続けるため木から降りてこないそうです。毎年、クマが出没したニュースが報じられています。今回、NHK福井放送局から取材があり地元でもクマの対策に苦慮しているようで「クマとの共生柿もぎ体験」は全国でも珍しい活動とのことでした。放送はNHK「シブ5時」で放送されました。

当日は、天気も良く「秋晴れ」という言葉がピッタリの天候でした。会場は広島県安芸太田町戸河内上田吹の標高400mの山里です。収穫する柿は高級柿「祇園坊」です。自治会長のあいさつの後、いよいよ収穫です。約20本の木から柿をもぎ取りコンテナに入れていきます。中にはすでに熟した柿もあり作業中に試食しました。甘くてジューシーとはまさにこの柿のためにあるのでしょうか。作業が終わりいよいよ昼食です。地元女性会の方が準備してくれた地元の食材を使った料理をいただきました。つきたてのお餅、新米のおむすび、イノシシ汁、イノシシの焼肉をいただきました。昼食会では、広島県猟友会の方から「人とクマについて考える」をテーマにツキノワグマの生態や特性、クマと人のかかわり方などの話を聞きました。

この活動のためにお世話になった広島県安芸太田町戸河内上田吹地区の皆さま、主催のNPOひろしま人と樹の会の皆さま、お世話になりました。

